



# シートベルトとチャイルドシート の正しい着用の徹底



長崎警察署

## ★ シートベルトの着用・使用率（％）

（令和5年調査結果）

	一般道路		高速道路等	
	全国	長崎	全国	長崎
運転者	99.2	99.6	99.6	100.0
助手席	97.1	99.0	98.6	99.7
後部席	43.7	41.7	78.7	66.4

長崎県は、後部席のシートベルトの着用率が全国平均を下回っている。

後部座席のシートベルトは、平成20年6月施行の道路交通法の一部改正により、従来の努力義務から義務化に変更された。



長崎県のシートベルト着用率

### ● 後部座席シートベルトを着用しないと3つの危険が！

シートベルトを着用していないと、

- ① 後部座席の致死率が約3倍
- ② 後席乗員の車外放出率が約15倍
- ③ 前席乗員の頭部重傷率が約51倍

と大変危険です。



## こんなに危険！！

### 1 事故の衝撃は想像以上です。

時速60キロの衝突では、高さ約14メートルのビルから落ちると同等の衝撃があります。

また、子供を抱っこした状態で事故に遭った場合には、時速50キロで衝突すると、抱いている人の腕にはお子様の体重の30倍の力（10キログラムの子供を抱っこしていた場合には、抱いている人の腕には300キログラムの力）がかかり、とても支えることはできません。

### 全席シートベルト着用



**2****車外放出の危険があります。**

シートベルト・チャイルドシートを着用していないと、車外放出の危険性が高くなります。

車外放出されると固い路面で体を強打するだけではなく他の車両に轢かれてしまう危険性もあります。

**3****他の同乗者への危険性があります。**

衝突の衝撃で後部座席の乗員が前方に飛び出し、前の席の乗員をシートとエアバッグの間に押しつぶし、圧死させる危険性があります。



## こんなに安全！！

○ **被害が大幅に減少します。**

衝突事故の時に、車内での他の乗員への衝突や、車外放出を防ぎます。

○ **負傷程度が軽くなります。**

シートベルトとエアバッグとの相乗効果により、負傷程度が軽くなります。

○ **正しい運転姿勢が保持され、疲労が軽減します。**

シートベルトをすることで正しい運転姿勢が保たれ、疲労が軽減することにより、運転に集中できます。

## 正しく着用・確実に使用しましょう!

- シートベルト着用の基本は、
  - ・ シートの背は倒さずに、シートに深く腰掛ける
  - ・ 肩ベルトは首にかからないように
  - ・ 肩ベルトは鎖骨から胸骨を通るように
  - ・ ベルトのたるみやねじれがないように
  - ・ 深く座って、腰ベルトが骨盤を巻くように
  - ・ タング（差し込み金具）は、カチッと音がするまで確実にバックル（留め金具）に差し込むです。



- チャイルドシート使用の基本は、
  - ・ 適合製品の確認  
国交省が安全性を認めた製品の認証マークがついているか
  - ・ 子供の成長に合わせたチャイルドシートの使用
  - ・ チャイルドシートがぐらつかないように、腰ベルトやハーネス（肩ベルト）をしっかりと固定するです。

成長に合わせて使いましょう。

